

ちとせ ふれあいニュース

発行元 千歳町自治会
発行責任者 廣瀬 義直
千歳町千歳垣根二十
三
TEL二二二・〇六八二

令和時代の始まり 自治会長 廣瀬 義直

超大型連休の終わりと共に、千歳の圃場は、薄緑の草地から黒々とした田んぼに、そして一雨ごとに鏡のような平らな水田へと変化し、田植えも終わろうとしています。機械の大型化により作業のスピードは早くなりました。

町民の皆様方には「健勝で過ごされたこととお喜び申し上げます。四月十五日発行の「自治会のお知らせ版」によりご報告したところですが、平成三十一年度（令和元年度）の千歳町自治会は、下記の通りの体制でスタートし、二ヶ月が過ぎました。六つの区の区長さんが交代され、清新な雰囲気の中、全役員がチームワークを大切にし、力を合わせ、精一杯務めますので、皆様方の「支援」「協力をどうにか宜しくお願ひ申し上げます。

今年度、令和元年にあたり、自治会として、左記にあげます三つのテーマを中心に取組を進めます。
一つ目は、まちの安全安心の取組。
二つ目は、町の賑わい（農業、観光、町民相互のコミュニケーション振興等）
三つ目には、子育て応援と中高年の健康長寿応援です。

ところで、新元号の「令和」特に「令」の意味について、外国では様々な意味合いで翻訳されているようですが、外務省では「ビューティフル・ハーモニー」（美しい調和）と英訳するようにしているとのことですが、私はこの英訳を気に入っています。千歳町では今、「既存集落まちづくり区域指定制度」の活用や、来年二月にオープンする京都スタジアムに隣接するまちとしての取組が動き始めていますが、いずれにしても、京都府の景観資産にも登録された美しい自然、史跡文化、良き伝統などとの「調和」が何より大切と考えています。まさに、「ビューティフル・ハーモニー」です。皆様方の温かい「支援」と「協力を重ねてお願ひ申し上げます。

次の写真は、四月三日の第一回自治委員会議で自治会役員・関係者揃って撮りました。役職や氏名は（四月十五日付け「自治会のお知らせ版」を参照ください）。

前列左より自治委員の清水一成、廣瀬隆、森川透、人見雅之、廣瀬義直、平野恒美、山田己義、廣瀬薫、佐々木勝美、後列左より事務員の廣瀬泰子、島津貴子雄、碓山啓史駐在官、そして区長の名倉洋一、武内征男、谷尻富雄、森川秀樹、古林峰夫、廣瀬照雄、小川房嗣、鴨井堯、右端二人は亀岡市コミュニティ推進員千歳町担当の廣瀬直人、主原晴菜です。（敬称略）なお、主

原晴菜さんは、五月から今西洋希さんに交代しています。お世話になりました。



出雲風流花踊りの奉納

出雲風流花踊り保存会

会長 杉崎 六男

四月十八日に出雲大神宮に於いて、恒例の「鎮花祭（はなしずめのまつり）」が営まれました。その中で、京都府登録無形民俗文化財にも指定されています「出雲風流花踊り」を奉納しました。

この踊りの始まりは、中世の頃といわれ、本来は雨乞いやその願済ましの芸能で、特別な衣装もなく笹踊りや浴衣踊りとも呼ばれていました。昭和四年に画家であり、風俗研究家であった吉川観方氏の考証により現在のような色とりどりの衣装となりました。

花踊りは、口上役の新発意一名、笹竹を持つ笹新発意二名、締め太鼓を手に打ちつつ踊る踊り子十二名、歌方、笛方によって構成されています。まず、新発意を先頭に境内へと入り、参道で「入葉（入端）」を踊り、次いで舞殿を囲んで「二の宮踊り」「恋の踊り」「正月踊り」の順に奉納しました。

一月は松、二月は梅と十二月までの花をあしらった花笠と華やかな衣装に身を包み、バチと締め太鼓でリズムをとりながら踊る姿はいかにも風流らしく華麗なものです。

平日にもかかわらず、外国の人も含めたくさんの観客に見守られながら、平成最後の花踊りが奉納されましたことをあがたく思いました。

